

市民活動に役に立つ「10の言葉」は 本冊子で紹介している6団体で 2022.2・3月に行った「座談会」の 対話から抜粋しました。

私たちも参加しました



広 石 株式会社 大 拓司シボブリットンパブリット



事例(1)

07

事例 02

事例 03

15

事例 04

19

事例 05

point

25

こんな路地裏のマンションに!? 古本屋コミュニティが生む人間関係。 風文庫

山に人が集まる!? 場づくりの パイオニアが考えた次なる仕掛け。

森マイスターたちによる

芦屋森の会2001

「歩くだけで楽しめる」山道計画。

芦屋というリズムにみんなでのる。 ジャズからはじまるまちづくり。

芦屋ジャズフェスティバル実行委員会

六甲山カフェ



まちの中での役割を見つけると、 人生は『おもろく』なる。 あしやらへん編集部



芦屋から地球を考える!

一隅の光となる歌声を届けたい。 私の好きなこの街復興支援プロジェクト

刀 ア 集まる が考えた次なる仕掛け。

屋ロックガーデ 最高なの ね

仕事 をしながら に立って 出来るし、 そこで一緒にお

一山カフェは似

も関わ 仲間をど

こ」と語り、 世間で 会の雰囲気は確実に変 ること

ぶには軽

うので



日替わり店主が好きなものを提供。 関わりしろを作ることで、 さらに多くの人が集まる。

カフ<mark>ェが持って</mark>いた

表現の場所としての力を、

山で企画。



六甲山カフェ (2004年設立)

糸井 健太 山納 洋

禁煙をきっかけに山登りに興味を持つ。高座の滝に下山した時に声をかけられ六甲 山カフェの一員に。普段は神戸市内の遊技場で店長を務める。(糸井 複合文化施設やインキュベーション、シェアカフェなどに関わる。2004 年、大谷 茶屋で「六甲山カフェ」を始め、現在は茶屋の継承に取り組む。(山納)

私たちが 解決<mark>したい</mark>

生まれ

る

建前

(1



年代に関係なく、 気兼ねなく、それとなく、 話できる空間を残していく。





1 10

05

持ってもらうことで、地域にも「意思決定」 協働ができる。

の機会を



思わなくても良い。

全員に賛同してもらおうと

2 10

で楽 め る 山道計画。

この森を

半には解散。 れており、

屋森の



んな場所があっ じるこ

私たちが 解決したい

忘れ 季節 人たち の生活 み方を



2001本の記念植樹祭に参加。 植えた苗を心配する気持ちから 活動を開始。



みんな<mark>が歩きやすい</mark>ように 月2回、山道を整備。 ハイカーへのガイドも。



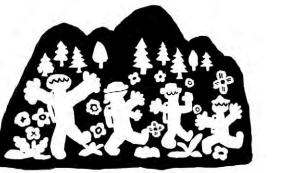
芦屋森の会 2001 (2001年設立)

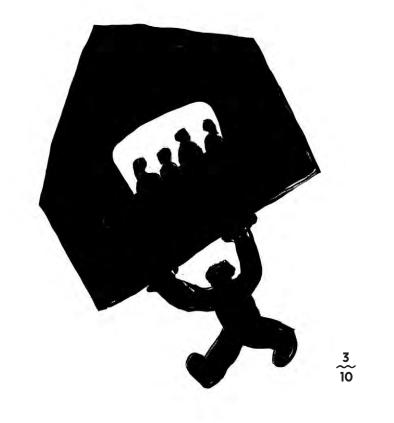
村上敏彦

東北大学卒業後、株式会社東芝に勤務。山歩きを契機として同好会「芦屋山水会」 を創設、1/25000 地図で自分のコースを決めて山行し、六甲山系の尾根・谷筋 の殆どを踏破してきた。山行中に目にする花・木の様子から森林生態学に興味を 持ち種々の資格を得た。森林草原の実務活動に努め、自然公園指導員なども務める。



森と人がありのまま。 自然を身近に感じながら 暮らせるまちにする。





「サービス」を提供するのではなく、 「コミュニティ」を提供しなくてはいけない。

活動を続ける。

10

6 は る





ジャズ仲<mark>間と、思い</mark>つきから まち全体を会場とする 『芦屋ジャズフェスティバル』を開催。

> コロナに負けず、 オンライ<mark>ンなどの工</mark>夫をして 発信し続ける。



芦屋を音楽が溢れるまちにして、 子どもの将来や大人の悩みを 解決するように。



芦屋ジャズフェスティバル 実行委員会 (2016年設立) 高橋 リエ

一般企業の営業職を経て、2007 年にジャズボーカリストとしてデビュー。日本中を飛 び回り、イベント出演やソロコンサートなどに出演する人気ジャズシンガー。ボーカリス トとしての活動の他、ジャズ入門者からプロを指導するボーカルレッスンや、ジャズのビー トに英会話を乗せてナチュラルなイントネーションや発音を学べる英会話レッスンも行う。



私たちが

逆に失われ

文化芸術に触れる機会

イベントは、運営側の方が楽しい!



 $\overset{5}{\widetilde{10}}$



「コミュニティ」が出来上がっていく。

みんなが活躍できる機会をつくれば

6 10

14

古本屋コミ 路 7 が生む 人間関係。

大阪の

つ

古書部の部員



るので

の

本を読む時間が



テナントを借りて本格販売開始。

小 4 の時に父親の転勤にともない芦屋へ。市内の中学・高校を卒業。結婚相手も芦屋 の人で、ほぼ半世紀にわたり芦屋に住み続けている。子どもの入学式で初めて聞くは ずの校歌をそらで歌えたり、参観日に自分の同級生に出会ったりなどの「芦屋あるある」 を多々経験しながら、狭い街ならではのよいところも、困ったところも見続けて今日に至る。

私たちが 解決したい

人たち



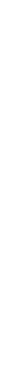


46 人の本好きがお店に 部員として集まる。

図書館ボランティアに参加。

本を提供する楽しさを知り、 古本販売を小さく開始。

「社会の気分」を言語化することが大事。





7 10



昔のことばかり話す団体に人は集まらない。

その過去は、

共有できないから。

18

. .

生 は 中 お もろ なる 0

違和

はなく

ひとりが贔屓のエリ



分のまれ 見つけて を誇り る





芦屋の『おもろい』人やお店を 知っ<mark>てもらいた</mark>いと、

フリーペーパーを創刊。

置いてく<mark>れるお店を</mark>増やし、 まち<mark>の人にもっ</mark>と 芦屋を知ってもらう。



あしやらへん編集部 (2021年設立)

フリーランスの WEB クリエイター。地域に根差したクリエイターとして、芦屋・ かりと汲み取ったホームページを作り上げている。2021 年には芦屋市の地元 発掘メディア「あしやらへん」のフリーペーパーと WEB サイトをスタートさせた。

私たちが 解決したい 課題

きて

まち

の情報

芦屋の人それぞれが、 自分の好きなエリアをもつことで 人生を『おもろく』してもらう。



廣狩 拓也 神戸の事業主をメインクライアントとして事業を展開。クライアントの想いをしっ

自身が疲れないことが大切。



「ほころび」を作ることで、

人が集まってくる。



私たちが 解決したい

身近な 平和 繋がるこ 』『環境』問 ことと 題を

大切さ





私の好きなこの街 復興支援プロジェクト (2011年設立)

檀 美知生 村嶋 由紀子

1989 年に合唱団 TERRA を設立。1995 年の阪神・淡路大震災で練習場が壊れたこと をきっかけに、1997 年に TERRA HALL を建設。2011 年、東日本大震災の被災地を 訪れたことをきっかけに『私の好きなこの街復興支援プロジェクト』として再スタート。国 内外の弱い立場の人々の支援を行っている。プロジェクトの中心は「奇跡の街合唱団」。

東日本<mark>大震災の被</mark>災地で 心<mark>を癒すため</mark>に、 合唱ミュージカルで支援。 被災者を芦屋に呼ぶことも。



コ<mark>ロナに負けず</mark>、 新作にも果敢に チャレンジし続ける。





人間同士の

真の

支援を

いるか

らか

ためにな

になる活動を始めてみれ直接自分と関係ないよ

の人生が逆にハッピーにる活動を始めてみません接自分と関係ない人たちまなこの街復興支援プロ

の活動をこな

たのは、 もし

公演会場でのカ

んの

か。「地球が抱えている『平和』と『環境』に

る私の好

なこの街復興支援

ジカル作品の中で切

コロナ禍で

シ

ヤルディ

ように練習を続けてルディスタンスを注

どのよ

安になっている

集中豪雨や干ばつは環

自分のこととして

緒に

思いがけないことで何かを失って

心が不

地震の

豪雨災害

被災地の福岡県朝

逃れた家族の支援も行い

2つの大震災、原発だいと考えています」

に3回も訪問し

その20

医療支援の中で訴えた『干ばつの気候変動』『平和』

-ル会への支援を

同じ境遇の少女5

「コロナが

活動は絶対に続けて

の感染対策は万全に行い、

人声楽練

をかけると、な

んと3名のメンバー

「避難所でコンサ

と津波で両親

ださって」さ

私

し応援 救った中

んと同級生の

村医師に畏敬の念

四近辺の音楽仲間を募って「一緒に陸前高田に行

これからは、アフガニスタ

の 檀

2年の夏には新作のコ

コロナ

一禍においても、

阪神

んでいるのだ





一緒に向かっていける仲間と 地球規模の課題も 芸術文化の力で 立ち向かいたい。



芦屋

6

球

を

考

隅

0

光

る歌声を届け

STEP.**06**

STEP.**05**

STEP. **04**

STEP. **03**

STEP.**02**

STEP.**01**



ソーシャルビジネスになるまで

一つのアイデアが、

4444

いろんな

4444

出して発表の舞

Ŕ

発表を聞い

カタチに

の特技や経験が役に立つなに気づく。見つける。を散歩してる時などに、

ソーシャルな問題について友人とおもしろアイデアを出し合ったり、プレゼン テーション大会に出てみたり、交流会に参加してみたり、本を読んでみたり。 時々、考えてるつもりなんだけど、いつまで経ってもカタチにならない。

自分に足らないのは発表の場? 対話する相手? 共に活動する仲間? 100%の 力で、ぶつかりたいのに進むべき方向さえ分からない。何一つサスティナブル じゃない。どうしたら、課題解決の仕組みができるの?

そうだ。小さなアイデアから始まったコトでもそれを「仕事」に出来れば、 継続しやすいかも。ずっと続けてると課題解決まで出来るかも。最後には、 その課題を生み出している仕組みや時代そのものを変えれるかも。

4444

案外を 一つの **が見つかる。**

4444

理想の「未来」 人が、社会が「